

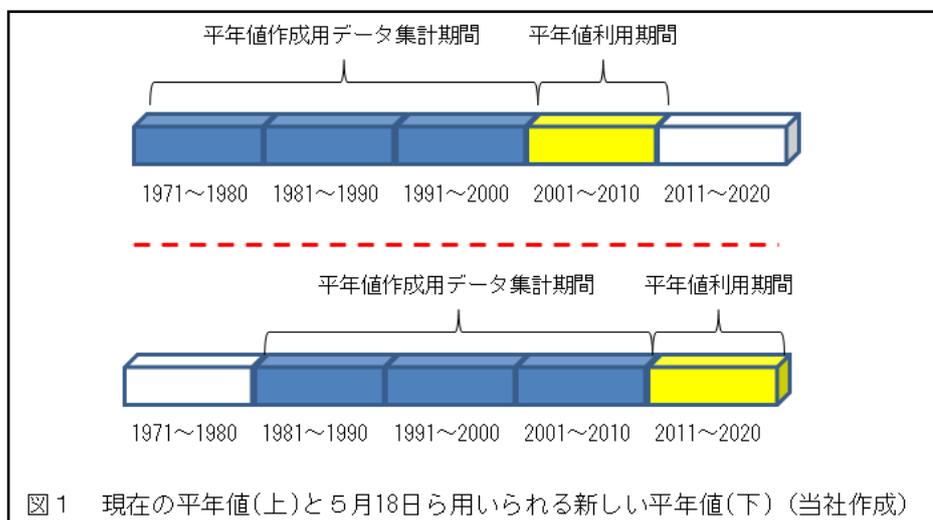
『温暖化が進み、梅雨明けはやや遅れ、サクラの開花は早まる!』

気象庁から発表される“平年並み”に用いられる平年値、
5月18日から値が変わります! 取扱注意事項をまとめました。

株式会社ライフビジネスウェザー(本社:東京都中央区、代表取締役:石川勝敏)の研究開発部門ビジネス気象研究所は、5月18日(水)から変わる“平年値”ポイントと取り扱い上の注意事項をまとめましたので、ここに発表致します。

そもそも平年値とは、平均的な気候状態を表す用語です。日本国内157か所の地上気象観測所(一般に気象台・測候所と呼ばれるところ、また南極昭和基地を含みます)や、1200か所以上の地域気象観測所(アメダス観測所)での日々あるいは月々の気温や降水量などの各種気象要素において個々に平年値が存在する他、梅雨入り梅雨明けや初雪、初霜、サクラの開花なども平年値(平年日)があります。平年値は、天気予報の中で用いられているだけでなく、広く産業活動の中でも用いられています。例えば日々の気象条件によって商品の販売動向が変わる流通業界においては、気象条件の変化を指数化してその販売数量を想定するにあたり、平年比と前年比(あるいは前週比、前日比など)を指標として用います。アウトドア・レジャー業界においても、気象条件によって観光行楽客数が大きく変動するもの(サクラの花見、花火大会、シーズンスポーツなど)は、そのピークタイミングを見極めるための基準指標として平年値を用います。

平年値は30年間の気象観測値をもとに計算され、常に直近の気候の状況を反映するため、10年に1回の周期で、値が差し替えられます。右の図1に示してあるように、2001年からこれまで用いられてきた平年値(以下、「旧平年値」と表現します)は、1971~2000年の30年



間の気象観測値をもとに平滑化処理を行って計算されたものでしたが、5月18日以降、1981~2010年の30年間の気象観測値をもとに平滑化処理を行って計算されたもの(以下、「新平年値」と表現します)になります。

過去も同様に、10年周期で平年値が更新されてきましたが、気候変動の幅がそれほど大きくなかったため、業務で平年値を利用している企業が業務に大きく影響を受けることはありませんでした。しかしながら近年の急速な温暖化により、今回の平年値更新にあたり、業務上無視できないほどの気温変化(平均0.5℃程度の上昇)が見られる地点が多くあります。そこで、業務上の誤解が生じないように、ポイントをまとめた次第です。

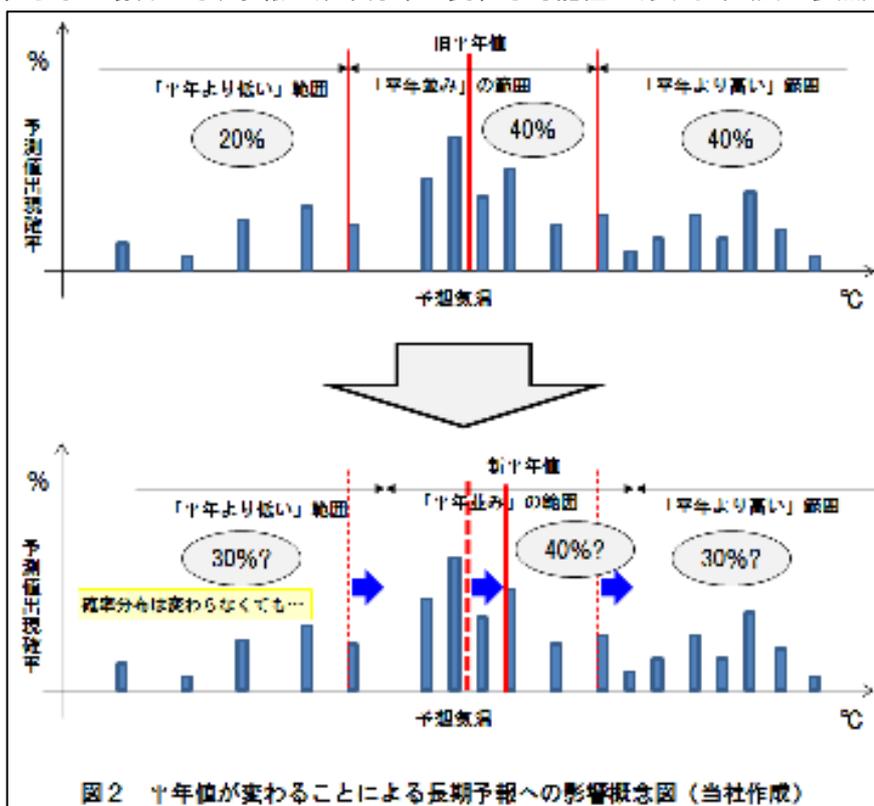
<主なポイント>

- ・東京では平均気温（の平年値）が1年を通して平均0.33℃高くなりました。
- ・東京では最も寒い時期の最低気温平年値が1.7℃→2.2℃に0.5℃上昇しました。
- ・東京では最も暑い時期の最高気温平年値が31.2℃→31.4℃に0.2℃上昇しました。
- ・日々の平均気温の年平均値が低くなった（すなわち、ここ10年で寒冷化した）地点は157地点中2地点（八丈島、四日市）のみでした。
- ・関東甲信地方では梅雨明けの平年日が1日遅くなりました（7月20日→7月21日）。
- ・関東甲信地方に限らず、全般に梅雨明けの平年日は1～2日遅くなった地方が多いです。
- ・大分県日田では、最も暑い時期の平年最高気温が33.9℃と全国の観測点の中では最も高く、旧平年値に比べて0.5℃上昇しました。
- ・北海道帯広では、最も寒い時期の平年最低気温が-8.1℃と全国の観測点の中では最も低く（昭和基地及び富士山の2つの観測所を除きます）、旧平年値に比べて0.6℃上昇しました。
- ・7月の平均気温は、東北北部～北海道では32地点中22地点が寒冷化し、温暖化したのは10地点にとどまったのに対し、東南北部以南では、124地点中122地点が温暖化し、寒冷化したのは2地点のみでした（昭和基地を除きます）。
- ・温暖化傾向が顕著に見られる月の第一位は3月で、全地点平均（昭和基地を除きます）で約0.412℃上昇しました。第二位は9月で、同じく0.411℃上昇しました。（共に値は少数第四位で四捨五入）
- ・平均気温が最も上昇した地点は神戸で、0.895℃（少数第四位で四捨五入）上昇しました。（※神戸観測所は1999年に移転しており、その影響による差分が含まれている可能性があります）神戸を除いて最も上昇した地点は高松で、0.524℃（少数第四位で四捨五入）の上昇となっています。
- ・東京では初雪の平年日が1日遅くなりました（1月2日→1月3日）。
- ・東京ではサクラの開花日が2日早くなりました（3月28日→3月26日）。
- ・東京では昨夏（2010年6～8月）の最高気温が平年に比べて2.58℃（少数第三位で四捨五入）高かったのですが、これを新平年値で換算すると平年より2.28℃（同）高い水準となります。
- ・東京では昨冬（2010年12～2011年2月）の最高気温が平年に比べて0.61℃（少数第三位で四捨五入）高かった（カテゴリーは「平年よりやや高い」）のですが、これを新平年値で換算すると平年より0.39℃（同）高い水準（カテゴリーは「平年並み」）となります。

<取り扱い上の注意事項>

- ・人間の主観ですが、「平年並み」の陽気感覚が少し変わると思われます。地球温暖化の効果があまり反映されていなかった旧平年値をベースにした平年並みの場合、夏の陽気はここ10年位の平均的な陽気から比べればむしろやや涼しいくらいのこともありました。今夏からはより暑い陽気であっても「平年並み」の範疇に入る可能性があります。
- ・直近の4月25日に気象庁から発表された3か月予報及び2月24日に気象庁から発表された暖候期予報は、いずれも旧平年値を基準にしていますが、3か月予報に関しては、次回5月25日に気象庁から発表されるものから新平年値が基準となります。もし仮に、気象庁が予測している今夏の気候状況が大きく変わらない場合でも、予報の確率分布は変わる可能性があります(図2参照)。

ここで注意しなければならない点は、確率分布が変化したからといって、必ずしも予想される天候の状況が変わったわけではないことです。あくまでも基準点がシフトしただけです。気温予報が下方修正されたと錯覚し、暑さ対策をおろそかにしないようにしてください。環境省の熱中症マニュアルにもあるとおり、熱中症は急に暑さが厳しくなって、まだ体が暑さに対する耐性ができていないタイミングに特に罹りやすいという統計的な考察があります。長期予報の発表内容が変化したからといって、必ずしも予測されている気温状況に変化がない場合も考えられますので、ご注意ください。



[株式会社ライフビジネスウェザー ビジネス気象研究所について]

株式会社ライフビジネスウェザーは、建設・テレビ局・携帯電話・流通等の各種業界に対して、天気と生活あるいは天気とビジネスの関わりをキーワードとしたコンテンツを発信する気象情報提供会社です。その中の研究開発部門であるビジネス気象研究所は、気象条件と健康状態、及び産業活動に関する基礎的な相関関係を分析し、情報発信・コンサルティング等を行う役割を担っています。

[本件に関するお問い合わせ]

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-10-14 人形町セントラルビル2階
 株式会社ライフビジネスウェザー ビジネス気象研究所 所長:常盤 勝美 (tokiwa-k@lbw.jp)
 TEL: 03-3668-6141 FAX: 03-3668-6145 / HP: <http://www.lbw.jp/m/>